

( 令和4 ) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

( 京都市向島南 ) 児童館・学童保育所

	活動の基本目標 (指針)	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内生活ならびに施設使用のきまりとマナーの指導。遊具の安全な使い方指導など。</li> <li>・帰宅指導ならびに避難訓練と災害時緊急対応指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館の施設や用具を安全に快適に利用するため諸注意、きまりやルールの定着、マナーについて、そのつどまた、毎日の終わりの会での指導を継続してきた。一つ一つ地道に指導を重ねることにより、履物や使ったものがきちんとそろようようになる、整えてくれるなど、一定の成果があらわれてきている。これからも引き続き指導を継続していきたい。</li> <li>・集団帰宅にあたり、交通ならびに不審者に対応できるよう安全指導をしてきた。児童の意識は、高まってきている。マナーの面での一層の向上を目指し声掛けを図っていく。</li> <li>・避難訓練については、台風・地震・水難 (小学校建物への避難) を想定したものについて指導した。また職員の中で不審者対応を想定した実地訓練を行った。</li> </ul>
	健康の管理・情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い、うがい等保健衛生習慣指導</li> <li>・トイレの使い方指導</li> <li>・感染症予防の指導 (検温・手洗い・消毒の励行)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から発熱時とおやつ時間前の手洗い・うがいの習慣化について重点的な指導を行ってきた。感染症の状況を鑑みて、手洗い・消毒を一体化として行い、手拭きもペーパータオルに切り替える。(ペーパー紙の大量消費に関しては今後検討しないといけない課題) また食中毒に対する知識等手洗い・消毒の意義を伝えながら行っている。トイレ指導は、すべての生活習慣形成に通じる重要な指導と位置づけ、継続してマナーの指導をしてきた。使用マナーが定着してきている。しかし「手指消毒」自体に関しては健康面で好ましくない一面もある事から、感染症の動向を見つつ、せっけんでの手洗い重視に切り替えていきたい。</li> </ul>
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ習慣指導</li> <li>・整理整頓後始末の習慣指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのあ」を大切にしよう児童に呼びかけ、「あいさつ」、「あんぜん」、「あとかたづけ」を児童の生活のめあてとして示し、その指導の徹底を図ってきた。上級生から下級生へと、次第に定着してきている。繰り返し、根気よく指導を続けること必要であると考える。</li> </ul>
	社会生活技術の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ・クリーンの日指導</li> <li>・「つくって食べよう」クッキング教室</li> <li>・「つくって遊ぼう」クラフト教室</li> <li>・当番制による整理整頓、点検の活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、大掃除を実施。ぞうきんの使い方、箒の使い方等を指導しながら環境美化等の意識を高める指導をしている。</li> <li>・☞ (クッキング) 状況を鑑みて今年度後半まで実施を控える。後半終盤感染状況の落ち着きに合わせて対面を避けての取り組みを少しづつ再開し始めてきた。少しづつ活動を広げていきたい。</li> <li>・毎月1回、「つくって遊ぼう」の時間を設け、手作りおもちゃに挑戦させ指導をしてきた。</li> <li>・毎日帰りの会の前に班活動として外遊び道具や館内設備などの整理整頓と点検を行っている。</li> </ul>
	生活体験の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕涼み会延期から「児童館まつり」へ</li> </ul> <p>* 伏見子どもまつり各館での分散開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足</li> </ul>	<p>親子の触れ合いとして外部企画予定し、参画の方向で動いていたがコロナ感染による休館等があり、秋に延期。秋にした事によって逆に気候的にも無理はなく保護者も気軽に参加できることもあって、取り組みの手伝いや児童の発表等一緒に楽しむ形態を作ることができた。猛暑で健康面の配慮が必要な近年の事を考えれば実施時期の変更も今後の検討課題とすべきかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で集まることはできなかったのが他館との交流の機会であったが残念結果になった。しかし身近な祭り企画となったので普段来ない児童の参加もあり一面では地域に向けて有効な取組であったともいえた。WEBに関しては、昨年の検討を土台に、保護者の承認を取りながらコンテンツ制作を行い、児童にとっても良い取り組みとなった。</li> <li>・covid-19の状況及び社会全般の動向から館外活動を実施を決定する。3月24日児童館活動として「堺市大型児童館ビッグバン」に無事行くことができ児童の活動を広げることができた。</li> </ul>
	社会性の養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢集団による遊びの指導</li> <li>・みんな遊びの指導</li> <li>・館内及び近隣児童館、京都大会等のより幅広い児童集団への関わり、参加の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なかよく たのしく げんきに」を児童館生活の目標に、異年齢の児童が一堂に集う児童館の特性を生かし、縦割りグループによる遊びを推奨してきた。毎月1回全体で遊ぶ「みんな遊び」にも取り組んでいる。「あそび会議」も少しづつ定着してきており、上級生の指導力等も今後育成していきたい。引き続き一層遊びの多様化と活動の広がりをすすめ、遊びを通して、創意工夫したり、他を思いやる心や互いを尊重し合う気持ちを育てていきたいと考える。残念ながら、3密回避や大会の中止等で、交流活動は行えなかったが、将棋に関して近隣児童館 (淀児童館) とのオンライン将棋交流の実践を実施。同時に、同館とこれをきっかけにオンラインでの遊び交流を実施する事も出来、他館の児童との交流に幅がで</li> </ul>
	自立の促進と自主性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会</li> <li>・けん玉検定 百人一首暗記検定等の検定</li> <li>・読書への興味関心を育てる。「読み聞かせ」「ブックトーク」</li> <li>・書き初め、百人一首の指導、伝承遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会や季節の行事を通して、児童に自分への振り返りや成長の確認をさせることにより、自立の意識や自主性を育てる取組を進めてきた。密集を避けることもあり、お祝いも「黙祝」といった感じで動作でお祝い表現をするなど工夫を行ってきた。</li> <li>・「読み聞かせ」「ブックトーク」活動で読書への興味を持たせていく方向で取り組む。定期的な実施できなかったが、読書活動を通して、よりいっそう自立心や探究心を育てていくことが課題である。</li> <li>・こま回し、あやとり、囲碁・将棋など伝承遊びを紹介し、自ら進んで活動したり、より自分を高めようとする意識を育てるようにしてきた。子どもたちの持続力には、個人差を限界があるので、多様なものが提供できるようにしていくことが課題である。またこういっただ活動を高学年、中高生の活動に接続、拡大していく工夫も必要となっている。</li> <li>・3月学童クラブの年度末の区切りに向け、1年間の思い出のアルバムづくりをした。修了式で記念に渡ししており、毎年保護者から楽しみにしている旨の感想をいただく。今後子どもたちにも出来る範囲で制作にかかわらせていくことも課題と考える。</li> <li>・コロナ予防による密集を避けるために戸外の実施として桜の木の下で入部式、修了式を実施し、1年の区切り、成長の区切りと振り返りの機会を設けることができた。</li> </ul>
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換 子育ての仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館だより、児童館だより地域版、「つくしんぼ通信」(児童館だより乳幼児クラブ版)の発行</li> <li>・連絡帳の活用</li> <li>・保護者コミュニケーション</li> <li>・HPや掲示板の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月児童館だよりと児童館だより地域版「向島南児童館よりこんにちは」を発行し、児童館の取組を発信している。単に取組のお知らせにとどまらず、子育て支援や、子育てについての意識の向上ならびに連帯につながるような内容となるよう一層の紙面の工夫が必要と考える。地域版については、地域住民に地域の子育てセンターとしての児童館の存在を意識してもらうとともに、地域連携を進めていく絆として配布方法や紙面の工夫も一層検討する。</li> <li>・連絡帳は、児童館と家庭をつなぐ大切なツールと考え、全職員ができるだけ目を通すようにしてきた。また、保護者へのメッセージは十分慎重に対応し、形式的なものや事務連絡だけにならないようにしてきた。今後ICTとの関連で、どのように連絡等を行っていく事になるかは検討課題となる。十全に活用できるよう継続検討していく。なお、門前の掲示板が小さい事もあり、より情報を伝えていくのに門前掲示板の拡張等検討していきたい。</li> </ul>
	子育てを支えるネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者説明会、懇談会の開催</li> <li>・保護者会組織の構築</li> <li>・学校、関係機関との連携</li> <li>・地域連携の構築</li> <li>・子育て基幹ステーション活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者説明会、懇談会を開いた。会議の自粛も考えたが、保護者と話ができる数少ない児童館での子どもの様子を伝える機会と捉えスライドなど使って工夫をしながら短縮時間で行う。また4年度は申請方法の変更、児童館アプリの運用の関係で年度末に懇談会の機会に説明会を実施して</li> <li>・問題行動の対応や生活指導については、学校と常に連携をとりあって進めてきた。児童虐待の未然防止にむけ、福祉事務所・子ども支援センターとも連携を深めている。より一層の学校との連携、地域との連携が重要となってくる。</li> <li>・子育て基幹ステーションとしての活動を実施した。コロナ感染予防機関については少数で確認程度にとどめることが多かった。</li> <li>・母親クラブの拡大と学童クラブの理解者を少しずつでも増やしていけるようにする。</li> </ul>